



学校だより

# 鯛ノ巣

●学校スローガン

夢キラリ笑顔ひろがる阿井小学校

あいさつ 一生懸命 あいじょう

島根県仁多郡奥出雲町立阿井小学校

令和4年9月号 9月21日発行

## 湯野神社と長島愛生園 ハンセン病との出会い

亀嵩温泉で行われている「砂の器・松本清張記念展」を見に行きました。手前味噌で恐縮ですが、映画「砂の器」は、私が出演した唯一の映画です。(と言ってもセリフのないエキストラですが…) 記念展には、今からおよそ50年近く前、亀嵩湯野神社の境内で撮られた出演の証となる記念写真も貼られていました。小学生だった私は、亀嵩の村の子という設定で他の5人とともに石段沿いの巨木のケヤキに隠れ、亀嵩の地に来た主人公の子どもを覗んだり、追いかけたりする場面を何度も撮影されました。

映画の世界の子役の方は、私たち田舎の子どもとは違う都会のきらびやかな世界に生きる子どもだろうと思っていました。しかしロケバスの中から降りてきた子役の方は、薄汚れた服(当然ながら役に合わせた服)を着て、なんだか自信なさそうな表情でした。「このシーンがうまくできなければ晩御飯もないよ」というようなスタッフの方(母親の方かもしれません)から、厳しい演技指導や叱責の言葉もあったように記憶しています。本物の映画を作る厳しさを目の当たりにしながら、役者さんは、たいへんだなあ子どもながらに感じたものでした。

### ●湯野神社での撮影シーン

作曲家として大成した主人公ひでおの封印された過去が明かされるシーンです。ハンセン病を患う父親とともにひでおは全国を放浪する中で、亀嵩を訪れ、湯野神社に向かいます。親子は、拝殿の床下で調査さんに見つかり放浪の旅が終わります。亀嵩の調査さんはこの後、ひでおの育ての親となるのです。

撮影が終了し、松江の映画館での試写会に招待されました。小学生の私には映画のストーリーはほとんど理解できず、自分が出てくると思われるシーンを見つけることに集中していました。「もしかしたらあの子が自分かな」と思うくらいほんの一瞬に、私の出演したシーンは終わりました。当時の私には、とても退屈な映画でした。

その後、教員になり、「砂の器」のテーマでもあるハンセン病について知る機会があり、「砂の器」のテーマの深さを学ぶことになりました。ハンセン病は、らい菌が皮膚と神経を侵す感染症であり、治療によって完治する病気です。しかしながら、不治の病として昔から恐れられていました。日本でも治療法が確立されていなかったこともあり、国策として間違った施策がすすめられ、らい予防法によって患者を強制的に隔離するという、患者の方々の人権を踏みにじるような取組が、長らく続けられました。

ハンセン病の元患者の方々が入所されている、国立療養所長島愛生園を視察に行ったことがあります。長島愛生園は、岡山県の瀬戸内海に浮かぶ長島に昭和5年に開所されました。視察の際には、島根県人会の代表の方に、案内をしていただきました。小・中学校、高等学校跡、病院、納骨堂(亡くなられた方の遺骨の多くが郷里に帰ることなく納められているそうです)など、この地で生涯生活できるようにするための施設がありました。島から逃走しようとする人を収監するための監房跡もありました。社会の垣根が高く、病気が完治した後も故郷に帰ることができにくいという現実があること、ご自身も長らく仮名を使っていることもお話されました。

ひでおの父親は隔離施設に収容されるため、親子は離れ離れとなります。ひでおにとってこの世界で唯一頼りにしていた父親との別れは、想像を絶するほどの悲しみがあつたと思います。そしてまた、ハンセン病の父親の存在を封印したまま、作曲家として大成し、育ての親でもある調査さんをあやめることとなったひでおの心の葛藤、真実を隠し通す選択をせざるを得ない差別の現実をまざまざと感じます。映画の世界とは言え、主人公親子を奇異な目で見ていた無知の自分に向き合い、差別のない社会の実現に向けて自分自身の人権感覚を磨いていかなければと思いました。

### ●人間回復の橋

長島と対岸の邑久とはわずか30mほどの距離ですが、長い間、長島は孤島でした。本土と長島をつなぐ橋は長島愛生園開所からおよそ60年後の昭和63年に、「人間回復の橋」としてかけられました。(この頁のハンセン病についての記述は長島愛生園HPを参考にしました)

### 環境整備作業



●8月21日には、保護者の皆さん、地域の皆さんに大勢ご参加いただき、校舎周りの環境整備を行っていただきました。天候の悪い中でしたが、皆さんのおかげで子どもたちが気持ちよく学べる環境にさせていただきました。ありがとうございました。

### 牛の飼育を学ぶ 4年

●4年生は毎年、和牛の飼育について学ぶ学習を行っています。9月1日に福原の渡部さん宅で飼育の様子を見学させていただきました。さらに9日に行われた共進会では、教えていただいた基準をもとに、牛の審査を行いました。どの牛も心を込めて育てられており、審査は難航しました。地域で歴史のある和牛の飼育について理解を深めることができました。



1年生は下口の和泉さんの牛舎で牛の絵を描かせてもらいました。

### 鉄づくりを学ぶ 3年



●3年生は16日に東洋製鉄に見学に行きました。写真は、12人の子どもが押しもびくともしないほどの重さのカウンターウエイトです。安全第一に製品づくりが行われていることを学びました。

### 阿井小の秋



●曼珠沙華

### ●台風一過



●空に伸びる

### 行事予定

- 9月25日(日) 阿井地区体育大会(中止)
- 27日(火) お話出前1・2年  
スクールカウンセラー来校
- 28日(水) 連合音楽鑑賞会(町体育館)
- 29日(木) お話出前3・4年
- 4日(火) スクールカウンセラー来校  
6年社会科見学(古代出雲歴史博物館)  
中学生職場体験学習~6日
- 5日(水) 児童集会(生活委員会)
- 7日(金) 秋季ロードレース大会/予備日 14,20
- 9日(日) 仁多郡陸上大会(中止)
- 10日(月) スポーツの日
- 11日(火) 5年連合宿泊研修(三瓶)~12日
- 14日(金) 就学時スクーリング検査
- 19日(水) 児童集会(4年発表)
- 20日(木) 食の学習(1・2年)  
学校公開デイ 学校保健委員会  
1年保護者給食試食会
- 22日(土) 遠足・登山
- 24日(月) 振替休業日
- 28日(金) 遠足・登山予備日

情報発信をしています。ご覧ください。

阿井小  
ホームページ



ブログ



# 生活習慣川柳

今年の夏も各家庭で生活習慣川柳に取り組んでいただきました。子どもだけで考えた川柳もあれば、保護者の方と一緒に考えられたものもあります。いずれの作品もほのぼのとした家庭の雰囲気が伝わってきます。

## ありがとう

- ★ありがとう 伝えるとみんなが優しい気持ちになるね
- ★ありがとう 元氣になれる 家族の笑顔
- ★「行ってきます」で マスクをつけて 「ただいま」で 手あらいをして 「おやすみなさい」で 今日元氣に ありがとう
- ★ほとけさん きょうもいちにち ありがとう

「ありがとう」いつの時代でも誰が使っても、気持ちの良いことばですね、これからも大事にしていきたいことばです。

## 家族

### だんらん

- ★あいことば にっこり えがお マスクでも
- ★かぞく みんな みんなで にこにこ えがお わっはっは
- ★目でわらう マスクしてても 伝わる笑顔
- ★節約で SDGs 心がけ
- ★マスク生活 オン・オフ しっかり みにつけた
- ★おでかけは マスクをつけて ディスタンス
- ★メディアを ひかえめにして 早寝早起き 頭もすっきり
- ★やくそくね 遊ぶ前には まず宿題
- ★マスク生活でも 伝えたい気持ちを 伝えよう

SDGs は 2030 年までに達成すべき、持続可能な開発目標のことです。17の目標が国際連合で立てられました。



## えがお

- ★リモコンかくされた テレビより 大事にしよう 家族とのお話タイム
- ★おふろばで きょうのできごとはなしたら からだもこころも スッキリだ
- ★どこにある さがしてしまふ アルコール
- ★毎日が 一つ一つの 宝物
- ★楽しくね 大事に過ごそう 毎日を
- ★わたしの元氣の源は 毎日の会話 ひとつひとつ
- ★メディアより 家族だんらん しか勝たん
- ★家族で 話すことが 一番の楽しみ
- ★がまんがまん あそぶまえに べんきようだ
- ★晴れた日は メディアとはなれて 遊ぼうね

今年も夏休みの課題をめぐって親子でドラマが繰り広げられたようです。基本は子どもの宿題なのですが。



## 手伝い

- ★おてつだい ありがたいいわれ うれしいな
- ★おてつだい すればするほど ほめられる
- ★ぼくがやる 言われなくても 風呂そうじ
- ★これするよ 今日も姉妹で お手伝い
- ★おてつだい よろこぶかおが 見たいから
- ★ぼくてごするよ だんだんね しぜんにみにつく いずもべん
- ★一人一人が 役割果たす 家族みんなでワンチーム
- ★兄妹で たまにははやおき 朝当番

「てごするよ」毎日の生活の中に自然と入り込んでいる素敵なお家庭です。



## あいさつ

- ★一日の 元氣のみなもと がんばって!!
- ★あいさつは 元氣でいい日のおまじない
- ★あいさつは マスクしてても 笑顔で元氣に
- ★あいさつは 家族みんなが 明るくなる 特別な合言葉
- ★朝起きて 家族のあいさつ あたたい
- ★おはようと あいさつすると きもちいいね

あいさつをテーマに考えられた川柳も毎回多いですね。みんなが気持ちよく生活するために、あいさつは欠かせないものという意識の表れですね。

新型コロナウイルスの制限がまだまだ続く中ですが、子どもたちは、何気ない小さなできごとにも喜びや楽しみを見つけてながら、毎日の生活を送っているようです。家族との日々のふれあいの中に「幸せ」がひそんでいるように思えます。

このたびお寄せいただいた作品は、阿井地区福祉振興協議会青少年育成委員会にて審査され学習発表会にて表彰される予定です。

## 夏休み

- ★夏休み しゆくだいがんばれ お母ちゃん
- ★夏休み ラジオ体そうで 元氣よく 始まる一日
- ★夏バテの 対策といい食べすぎて 気付けば腹に 肉も付くかな
- ★夏休み 楽しいけれど 友こいし
- ★夏休み あとという間に おわったな



1年 「おろち」

